

織衣復権

<2>

服の分野に乗り出した。

着物の需要が落ち込む中、織

布生産額が一九九四年の八百億

円超から二〇〇七年に二百億円

を切るなど低迷が続く県内織物

業。しかし産地では、伝統的素材

を現代的な商品づくりに生かす

取り組みが実を結びつつある。

縮、紬の産地、小千谷市。小

千谷織物同業協同組合は一九九

二年から「フリーフロム」のブ

ランド名で、麻製の小千谷縮の

紳士服や寝装品を企画・販売し

ている。

ている。肌の弱い体質の人はリ

ピーターになってくれているよ

うだ」と話す。

二月には、にいがた産業創造

機構(NICO)の県産品プラ

ンド「百年物語」の二〇〇九年

モデルの一つとして、紳士服が

ドイツの見本市で披露された。

NICOにとって初の本格的な

ファッション商品で、「欧州の

セレクトショップ数社から引き

合いが来ている」(NICO担

当者)という。

素材の魅力が浸透すること

ければならないが、生産が追い

つかない状況だ。

小千谷産地でも、着物復権の

兆しがある。織物全体の出荷

額は落ちているが、麻織物に限

らば、着物にも相乗効果が出て

いる」と満足そうにうなずいた。

た。佐藤事務長は「フリーフロ

ムによって麻の良さが浸透し、

着物にも相乗効果が出ている

と満足そうにうなずいた。

らば、着物にも相乗効果が出て

いる」と満足そうにうなずいた。

た。佐藤事務長は「フリーフロ

「カラムシを使ったワイシャツです。試作品がちょうどできました」。麻独特の透明感のある白いワイシャツを手に、十日町市のカラムシ製品企画・販売「ネオ昭和」の村山好明社長(五九)は笑顔を見せた。

伝統素材

洋服で魅力アピール

着物見直され、相乗効果

保湿性がある肌にやさしい天然繊維。せっかくだから現代にマッチした形で復活させようと考えた

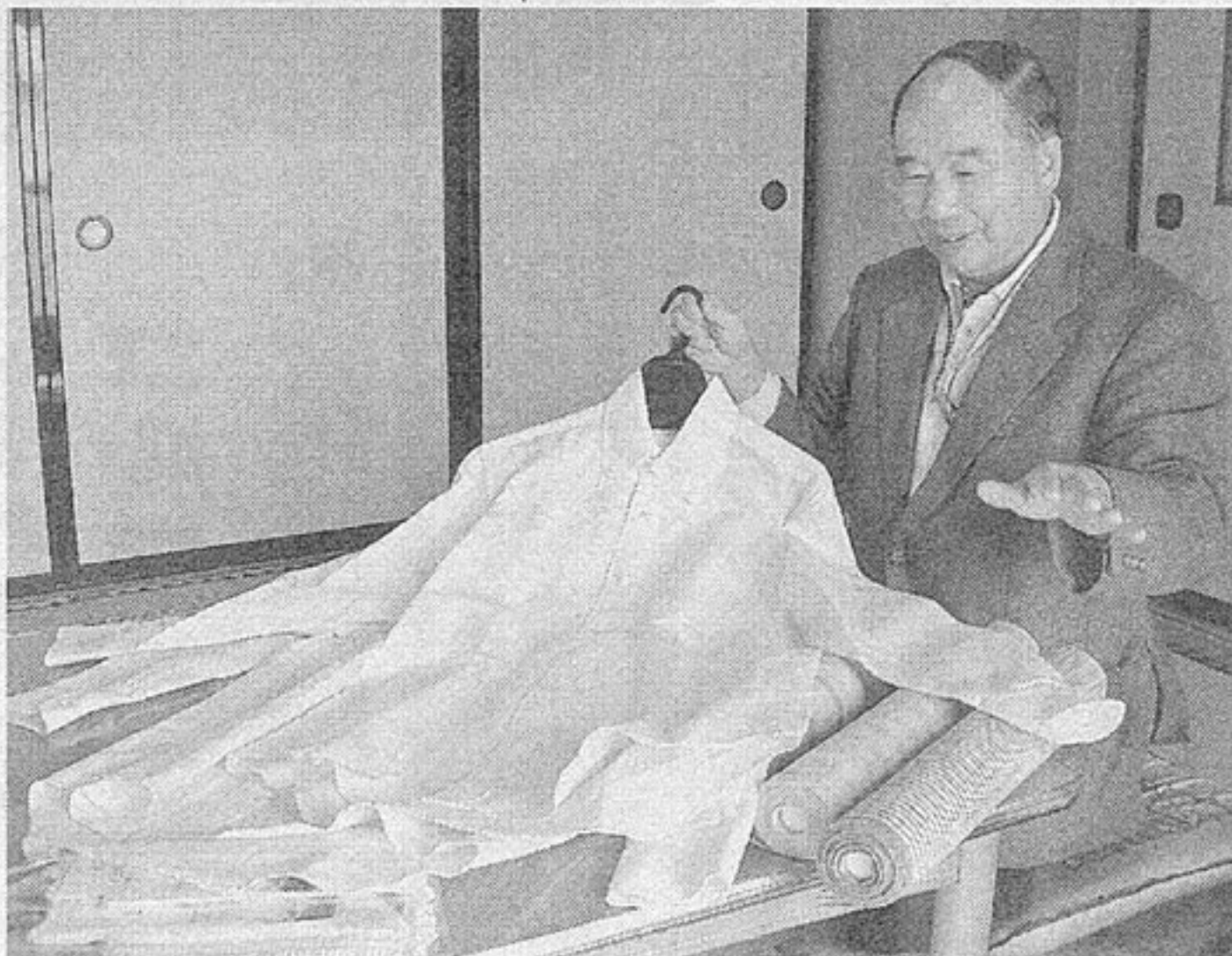
六年から「フリーフロム」のブランド名で、麻製の小千谷縮の紳士服や寝装品を企画・販売している。

独特のしわのある素材感や軽さが好評といい、アパレル、流通業者と息の長い取り引きを続け、複数の百貨店でも扱われている。同組合の佐藤博光事務長(五八)は「天然素材の良さが受け

同社は織物産地である地元の技術を使い、手袋や靴下、バスローブなどを商品化。さらに今年、カラムシの知名度を高めようと群馬県のメーカーと共同でワイシャツを開発、本格的な洋

独特のしわのある素材感や軽さが好評といい、アパレル、流通業者と息の長い取り引きを続け、複数の百貨店でも扱われている。同組合の佐藤博光事務長(五八)は「天然素材の良さが受け

素材の魅力が浸透することによって、同じ素材による伝統的な着物も見直され始めている。



安全・安心

マーケット

<第3部>

群馬県のメーカーと共同開発したカラムシ製のワイシャツやブラウスを手に、素材の特徴を語るネオ昭和の村山好明社長(五九)は「天然素材の良さが受け